

8月20日 ヤコブの手紙1章19～27節

説教題：「あなたは覚えていますか」

私たちはどうしてもすべての物事を覚えていることが出来ない生き物であります。例えば、先週の聖書箇所はどのような箇所だったか、覚えているでしょうか。私たちは重要ではない情報どころか、「大切なことだと思っけていても忘れてしまう」、そんな生き物なのです。

ただ、私たちの記憶力は「すぐに忘れる」だけのものではありません。はるか昔の景色を今でも覚えていたり、ふっとしたきっかけで臭いまで鮮明に思い出すことがあるほどに、私たち人間の「記憶する力」はとても素晴らしいものなのです。実際は、私たちが見聞きした物事は、完全に私たちの記憶から消滅しているのではなく、ただ「思い出すことができない」だけであり、私たちの中には確かに残っているのです。

今日の聖書箇所では、私たちに対して御言葉が「心に植え付けられている」と語られています。私たちは記憶として、言葉としてすぐに思い出すことが出来ないかもしれませんが、心の奥底には確かに刻み付けられているのです。だからこそ、その御言葉に支えられながら、日々をキリスト者として歩むことが出来るのです。

そのキリスト者として生きるために、今日の箇所では三つのことが命じられています。「聞くのに早くしなさい」、「話すのに遅くしなさい」、また「怒るのに遅いようにしなさい」という言葉であり、今日の箇所はそれぞれの命令が詳しく説明されている箇所であります。

特に、中心となっているのは「怒るのに遅くしなさい」という命令です。「自分は信心深い者だと思っけても」、つまりは宗教的な決まり事を守って、礼拝を忘れずに行って、形式上は立派な信仰者だとしても、「怒りによって人の悪口を言った時点でその人の信仰は無意味である」と言われています。愛のない信仰が無意味であるというこの言葉は、その先には、誰に対しても愛を示すことの出来ない人は「キリスト者と名乗る資格はない」「その人に救いは訪れない」という結論にまで導かれるのです。私たちは、神様から愛を受けて、神様を愛して、隣人を愛する使命をイエス様から受けて信仰者になっています。ただ同じクリスチャンだけを愛すればいいのではなく、自分の生活だけを守ればいいのではなく、私たちには「信仰があるからこそ行うことが出来る愛の業」を行い続けることが求められているのです。

物事を忘れてしまう私たちですが、これらの命令は、きちんと覚えておかなければいけません。私たちは、この教会の中だけでキリスト者であればいいわけではないのです。日曜日だけではなく、これから生きる全ての場面で、堂々とキリスト者である、そして「クリスチャンは素晴らしいんだな」と思ってもらえる生き方をする、その事が求められているのです。

今日の聖書の言葉も、明日には忘れてしまうのかもしれませんが、しかし、今御言葉を分かち合っている私たち一人一人には、今この瞬間、確かに心に御言葉の種が植え付けられているのです。今この時は記憶に残らなくても、どこかで、何かのきっかけで御言葉の花は開くのでしょうか。御言葉という種を成長させてくださるのは神様です。私たちはその御言葉を心に植えて、水をやって、あとは祈りながら待つのです。いつか花開く、その喜ばしい時を期待しながら、今週一週間の歩みを、これからの歩みをともに進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヤコブの手紙1章19～27節

- ・19:わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。人の怒りは神の義を実現しないからです。だから、あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。御言葉を聞くだけで行わない者がいれば、その人は生まれつきの顔を鏡に映して眺める人に似ています。鏡に映った自分の姿を眺めても、立ち去ると、それがどのようなようであったか、すぐに忘れてしまいます。しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、聞いて忘れてしまう人ではなく、行う人です。このような人は、その行いによって幸せになります。自分は信心深い者だと思っても、舌を制することができず、自分の心を欺くならば、そのような人の信心は無意味です。みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です。